

4 子育てや子どもの教育について

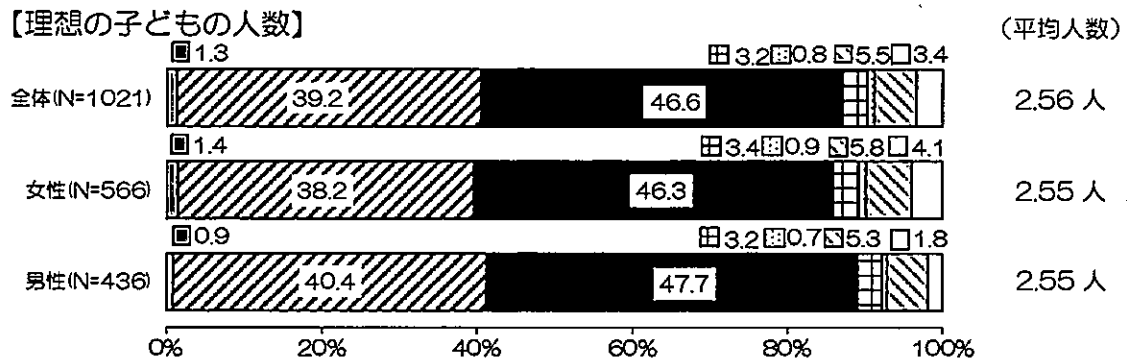
7-1 理想の子どもの人数、実際の子どもの人数

- 問7 (1) あなたの理想とする子どもの数は何人ですか。(1つだけに○印)
 (2) 実際の子どもの数は何人ですか。(1つだけに○印)

ポイント

- 理想の子どもの人数は、全体の平均で2.56人。
- 理想の子どもの人数では、平均で男女とも同じである。

図7-1-1 理想の子どもの人数



■ 1人 ■ 2人 ■ 3人 ■ 4人以上 □ 0人 ■ わからない □ 無回答

※平均人数は「わからない」、「無回答」を除いた件数を母数とし、「4人以上」は4人として算出している

理想の子どもの人数について、全体では「3人」という人の割合が46.6%と最も高く、次いで、「2人」が39.2%で合わせると8割以上が2～3人と回答しており、平均人数でも2.56人となっている。前回調査では、「2人」が42.4%と最も高く、次いで「3人」が42.1%で、平均人数は2.53人だった。

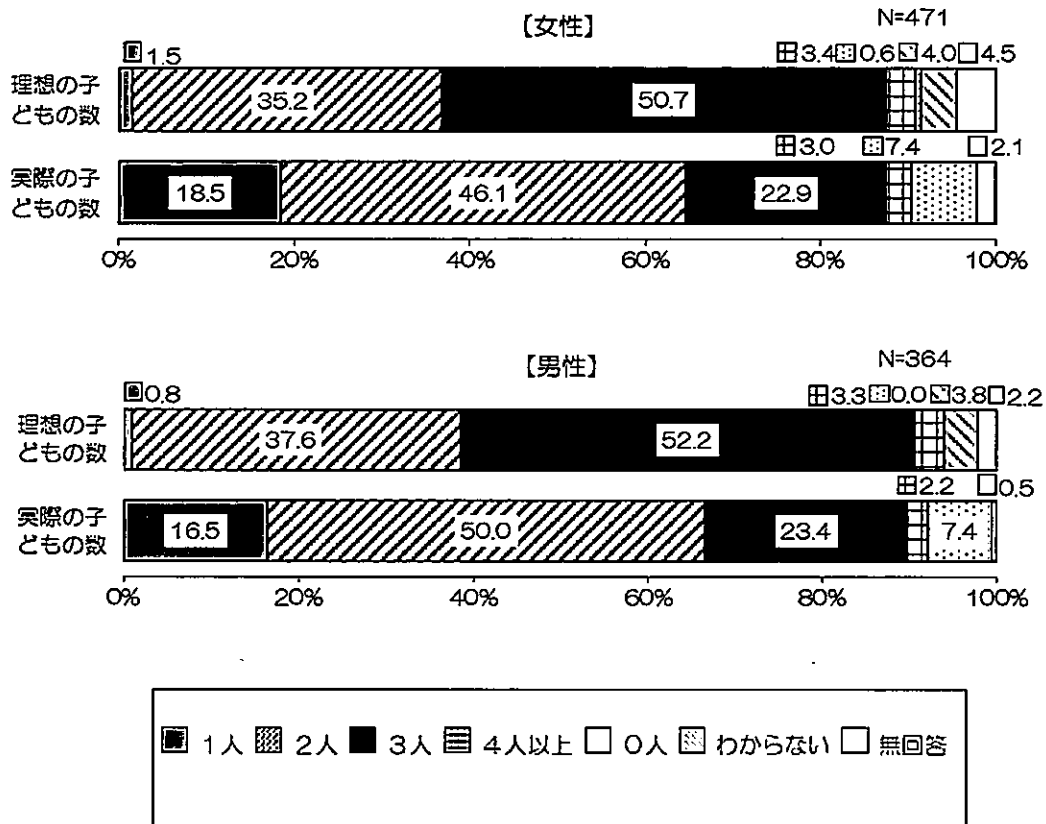
性別にみると、「2人」と回答した人の割合は、女性では38.2%、男性では40.4%となっており、「3人」と回答した人の割合は、女性では46.3%、男性では47.7%となっている。「2人」、「3人」と回答した人の割合はともに男性が女性を上回るものの、男女間で大きな差はみられない。

平均人数は男女ともに2.55人となっている。(図7-1-1)

図7-1-2 理想の子どもの人数・実際の子どもの人数（結婚経験者のみ）

ポイント

- 理想の子どもの人数が「3人」という人の割合は、男女ともに半数以上と最も高いが、実際の子どもの人数が「3人」という人の割合は約2割と差が大きい。
- 実際の子どもの人数が「2人」という人の割合は、男女ともにほぼ半数となっている。



理想の子どもの人数が「3人」という人の割合は、女性では50.7%、男性では52.2%と半数を超えているが、実際の子どもの人数が「3人」という人の割合は女性では22.9%、男性では23.4%と約2割となっており、男女ともに20ポイント以上の差がある。理想の子どもの人数が「2人」という人の割合は、女性では35.2%、男性では37.6%となっているが、実際の子どもの人数が「2人」という人の割合は、女性では46.1%、男性では50.0%となっており、男女ともに10ポイント以上の差がある。また、男女とも理想の子どもの数が「1人」という人の割合は1%程度となっているのに対し、実際の子どもの数が「1人」という人の割合は10%以上となっている。(図7-1-2)

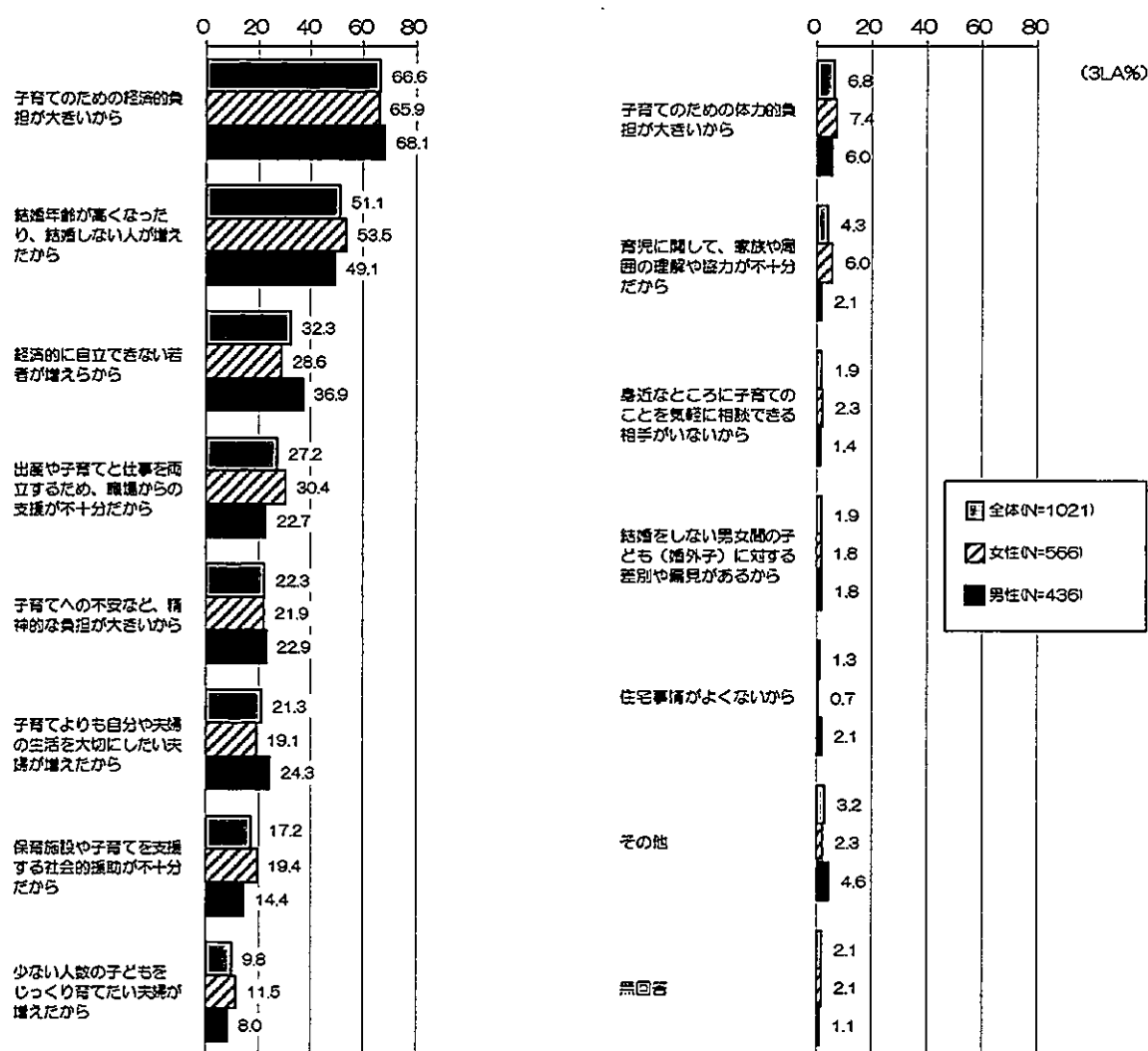
8-1 子どもの減少の理由についての考え

問8 最近、生まれてくる子どもの数が減っています。それはなぜだと思いますか。
(3つまでに○印)

ポイント

- 男女ともに「子育てのための経済的負担が大きいから」と答えた人の割合が最も高く、次に、「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」ということを理由にあげている。
- 「経済的に自立できない若者が増えたから」では、男性の方が高く、「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」、「出産や子育てと仕事を両立するための、職場からの支援が不十分だから」では、女性の方が割合は高い。

図8-1-1 子どもの減少の理由についての考え



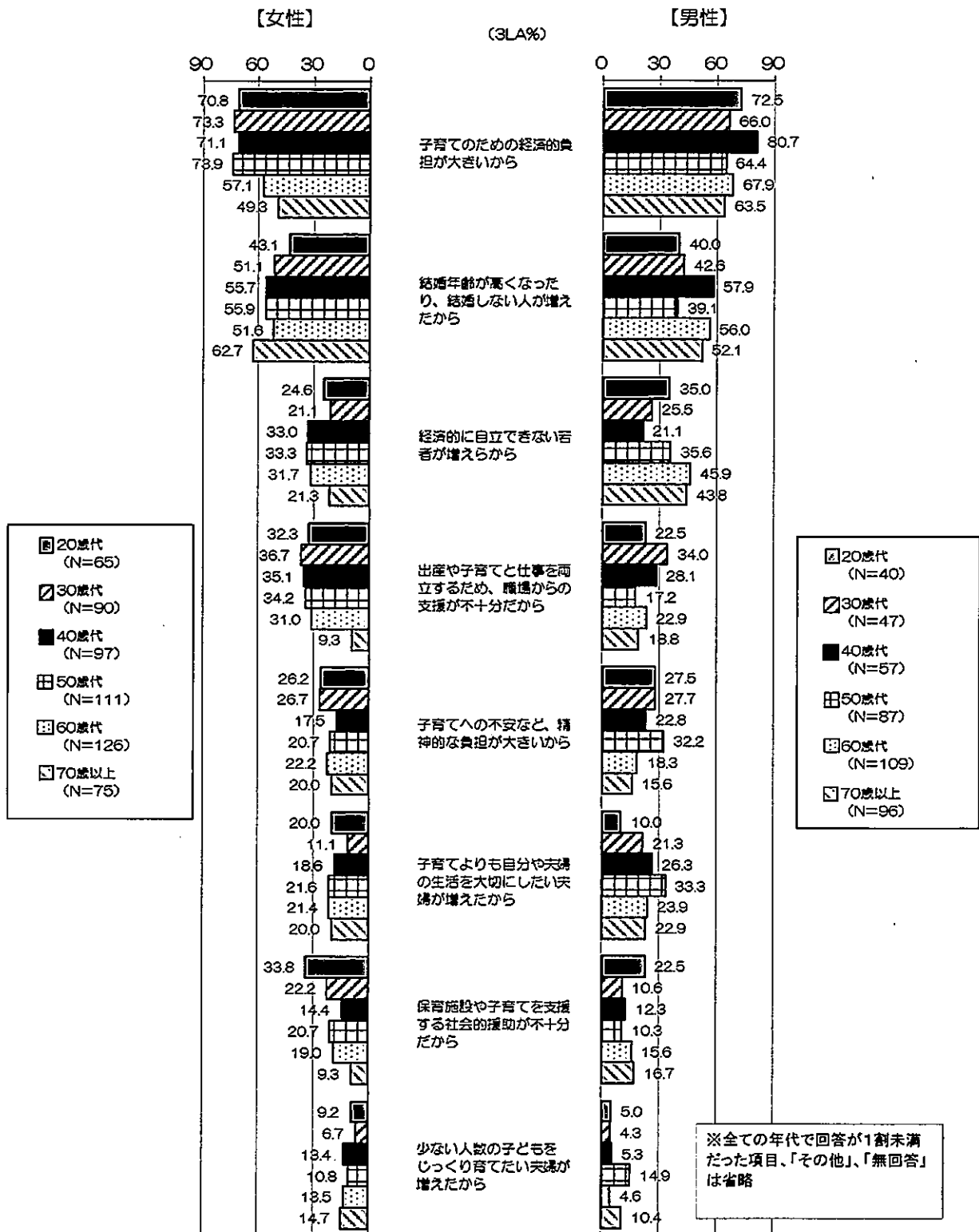
子どもの減少の理由についての考えについて、全体では「子育てのための経済的負担が大きいから」が66.6%と最も高く、次いで、「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」が51.1%と半数を超えている。

性別にみると、男女差が大きく表れた項目は、「経済的に自立できない若者が増えたから」で8.3ポイント男性の方が高く、「出産や子育てと仕事を両立するため、職場からの支援が不十分だから」で7.7ポイント女性の方が高くなっている。(図8-1-1)

図8-1-2 性年齢別 子どもの減少の理由についての考え

ポイント

〇「子育てのための経済的負担が大きいから」と「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」と考える人が、男女ともに年齢層にかかわらず多い。



性年齢別にみると、「子育てのための経済的負担が大きいから」は女性では50歳代(73.9%)、男性では40歳代(80.7%)が高くなっている。「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」は女性では70歳以上(62.7%)、男性では40歳代(57.9%)で高くなっている。「経済的に自立できない若者が増えたから」では女性では50歳代(33.3%)、男性では60歳代(45.9%)で高くなっている。(図8-1-2)

なお、結婚の有無別の分析を実施したところ、「子育てへの不安など、精神的な負担が大きいから」、「保育施設や子育てを支援する社会的援助が不十分だから」では男女ともに未婚者の方が割合は高く、「結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから」、「子育てよりも自分や夫婦の生活を大切にしたい夫婦が増えたから」、「少ない人数の子どもをじっくり育てたい夫婦が増えたから」、では、男女ともに結婚経験者の方が割合は高いという結果となっている。(参考)

(参考：結婚の有無別分析)

(3LA%)

	全体	子育てのための経済的負担が大きいから	結婚年齢が高くなったり、結婚しない人が増えたから	経済的に自立できない若者が増えらから	出産や子育てと仕事を両立するため、離婚からの支援が不十分だから	子育てへの不安など、精神的な負担が大きいから	子育てよりも自分や夫婦の生活を大切にしたい夫婦が増えたから	保育施設や子育てを支援する社会的援助が不十分だから	少ない人数の子どもをじっくり育てたい夫婦が増えたから
女性									
結婚経験者	472	65.7	53.6	28.4	30.1	21.8	20.1	18.2	12.1
未婚者	92	68.5	52.2	30.4	31.5	22.8	14.1	26.1	8.7
男性									
結婚経験者	365	68.8	49.9	37.8	23.6	22.5	24.9	14.0	7.9
未婚者	70	64.3	44.3	32.9	18.6	25.7	21.4	17.1	7.1

※結婚経験者、未婚者ともに1割未満だった項目、「その他」、「無回答」は省略している。

図9-1 子育てについての考え

問9 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
 (①～⑨の項目それぞれについて、1つだけに○印)

ポイント

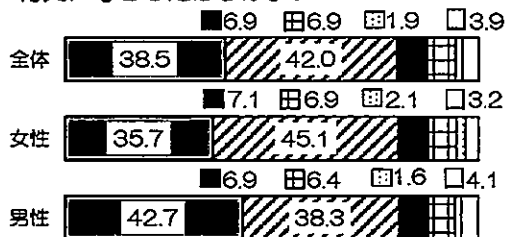
○「①子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」、「③親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい」、「④子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよい」、「⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい」、「⑧男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」、「⑨女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」は、いずれも『肯定的な意見』がほぼ8割以上を占める。

○「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくつけるのがよい」、「⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい」では、『肯定的な意見』の割合は男女間で差が大きくなっている。

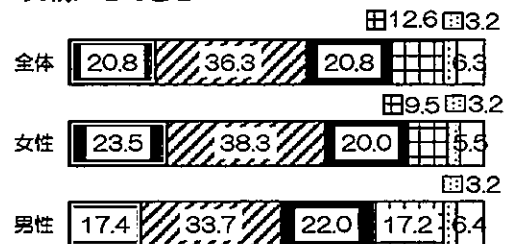
図9-1-1 子育てについての考え

全体：1,021件
 女性：566件
 男性：436件

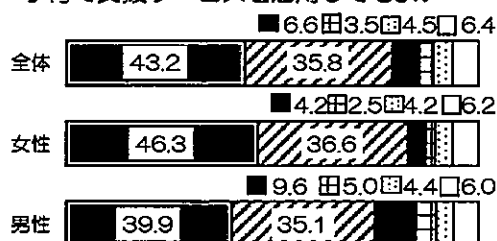
①子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい



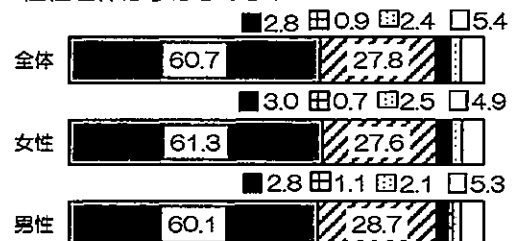
②子どもの世話の大部分は、父親にもできる



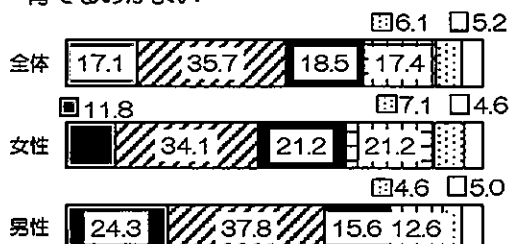
③親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい



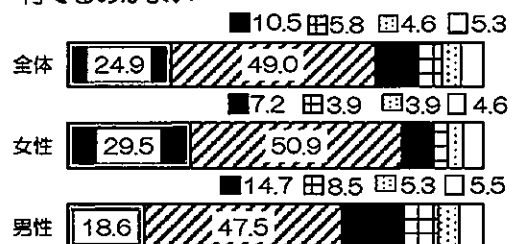
④子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよい



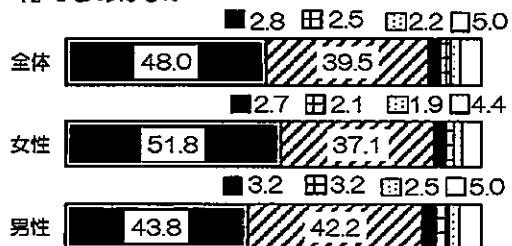
⑤男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい



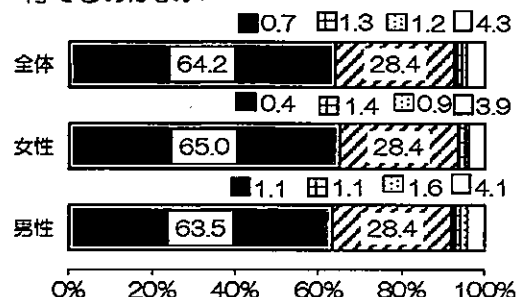
⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい



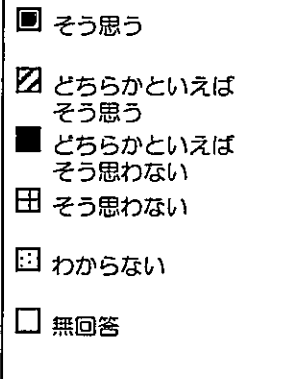
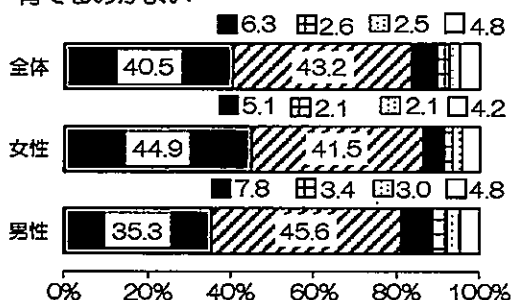
⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい



⑧男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



⑨女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい



子育てについての考えについて、「①子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」では全体で、『肯定的な意見』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたもの）は80.5%で『否定的な意見』（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合わせたもの）の13.8%を大きく上回っている。性別にみると、『肯定的な意見』は男女ともほぼ同じであるが、そのうち「そう思う」という人の割合では、男女間の差が大きく、男性の方が7.0ポイント高くなっている。

「②子どもの世話の大部分は、父親にもできる」では、全体で『肯定的な意見』は57.1%と半数以上となっている。性別にみると、女性では『肯定的な意見』は61.8%と半数を超え、男性でも『肯定的な意見』は51.1%と、『否定的な意見』の39.2%を上回っている。

「③親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい」では、全体で『肯定的な意見』は79.0%となっている。性別にみると、『肯定的な意見』は女性が82.9%と男性よりも7.9ポイント高くなっている。

「④子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよい」では、全体で『肯定的な意見』は88.5%と高く、『否定的な意見』（3.7%）を大きく上回っている。性別にみると、『肯定的な意見』は女性では88.9%、男性では88.8%とほとんど差が出ていない。

「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくつけるのがよい」では、全体で『肯定的な意見』は52.8%となっている。性別にみると、『肯定的な意見』は女性では45.9%、男性では62.1%と男性の方が16.2ポイント上回っている。

「⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい」では、全体で『肯定的な意見』は73.9%と『否定的な意見』（16.3%）を大きく上回っている。性別にみると、『肯定的な意見』は女性では80.4%と男性の66.1%と比べ、14.3ポイント上回っている。

「⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい」では、全体で『肯定的な意見』は87.5%と『否定的な意見』(5.3%)を大きく上回っている。性別にみると、『肯定的な意見』は女性で88.9%、男性で86.0%と女性の方が若干高く、「⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい」の男女差と比べて小さくなっている。

「⑧男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」では、全体で『肯定的な意見』は92.6%と『否定的な意見』(2.0%)を大きく上回っている。性別にみると、『肯定的な意見』は女性で93.4%、男性で91.9%と女性の方が若干高くなっている。

「⑨女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」では、全体で『肯定的な意見』は83.7%と『否定的な意見』(8.9%)を大きく上回っている。性別にみると、『肯定的な意見』は女性で86.4%、男性で80.9%と5.5ポイント女性の方が上回っている。(図9-1-1)

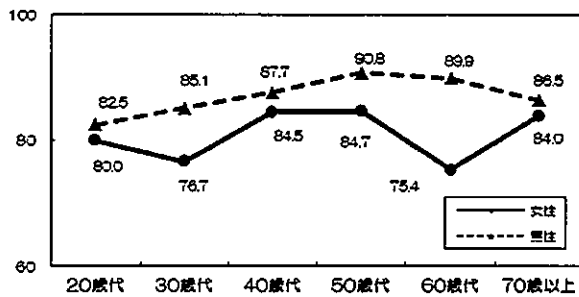
図9-1-2 性年齢別 子育てについての考え

【『肯定的な意見』の人の割合】

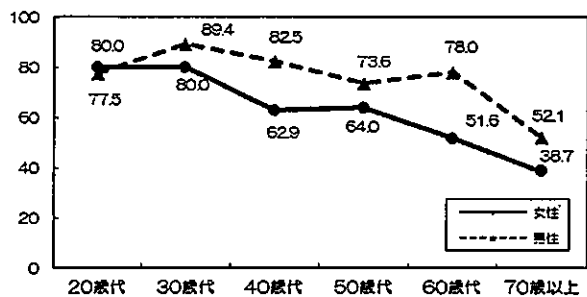
ポイント

- 男女ともに高年齢層になるほど、「②子どもの世話の大部分は、父親にもできる」とする『肯定的な意見』は減少する。
- 「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくつけるのがよい」では、男性の『肯定的な意見』の割合が女性を大きく上回っている。

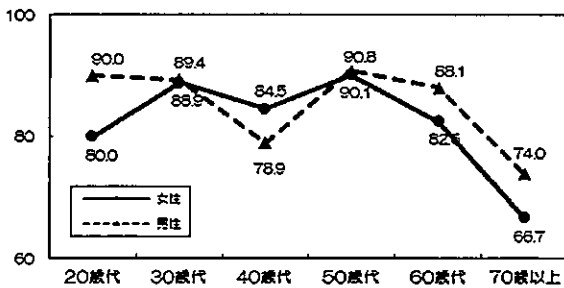
①子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい



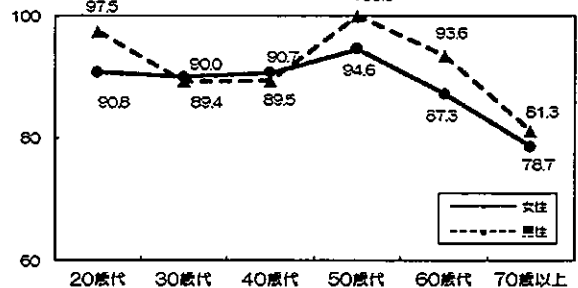
②子どもの世話の大部分は、父親にもできる



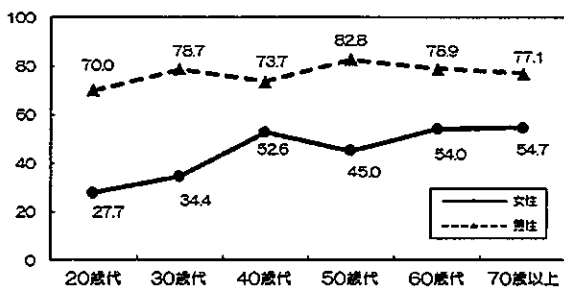
③親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい



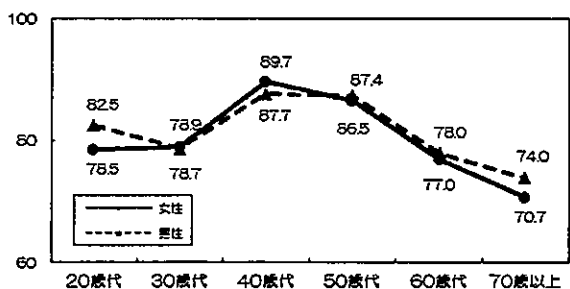
④子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよい



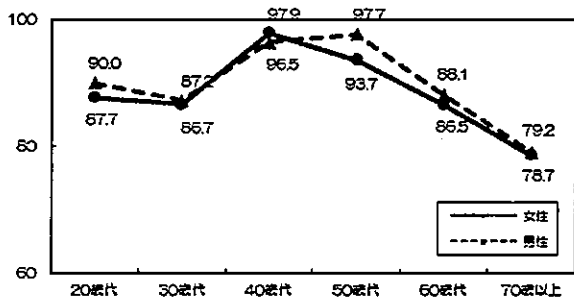
⑤男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい



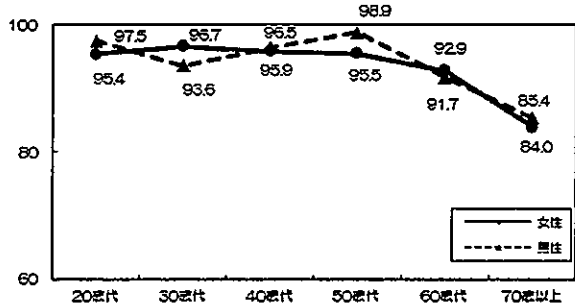
⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい



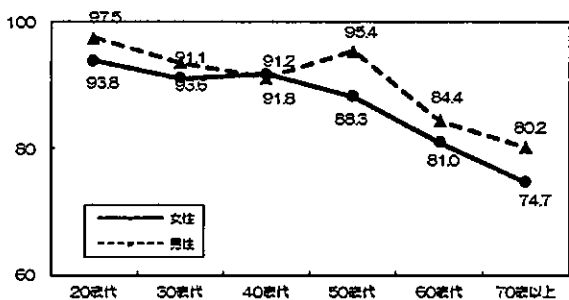
⑦女の子は家事ができるように
育てるのがよい



⑧男の子は経済的に自立できるように
育てるのがよい



⑨女の子は経済的に自立できるように
育てるのがよい



※「無回答」を除いた割合を記載している
 ※『肯定的意見』は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を
 合わせたもの

子育てについての考えについて、『肯定的な意見』の割合を性年齢別にみると、「①子どもが小さいうちは、母親が育児に専念したほうがよい」では、『肯定的な意見』が女性の30歳代および60歳代を除いた男女の各年代で8割以上を占めている。「②子どもの世話の大部分は、父親にもできる」、「③親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい」では、若年層で『肯定的な意見』の割合が高いが、高年齢層では低くなっている。「④子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよい」では、性別や年齢にかかわらず、『肯定的な意見』の割合が7割以上となっている。その一方で、「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくつけるのがよい」では、若年層よりも高年齢層の方が『肯定的な意見』が多くなっている。特に女性では、20歳代で27.7%、70歳以上で54.7%と世代間の差が大きくなっている。

「⑥男の子は家事ができるように育てるのがよい」、「⑦女の子は家事ができるように育てるのがよい」、「⑧男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」、「⑨女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい」については、年齢別に考え方の違いが見られるものもあるが、極端に差は見られない。また、男女別でも考え方に大きな差は見られない。(図9-1-2)

図9-1-3 前回調査比較 性年齢別 子育てについての考え

ポイント

○「②子どもの世話の大部分は、父親にもできる」、「③親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい」などでは、前回よりも男女ともに『肯定的な意見』は増加している。
 ○「⑤男の子は男らしく、女の子は女らしくつけるのがよい」は、前回よりも男女ともに『肯定的な意見』が減少している。

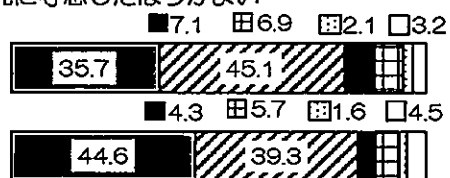
女性:今回566件 前回704件

男性:今回436件 前回517件

【女性】

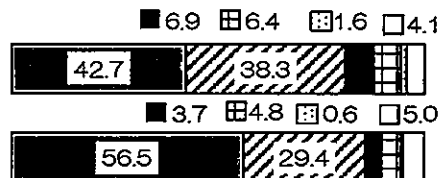
【男性】

①子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい

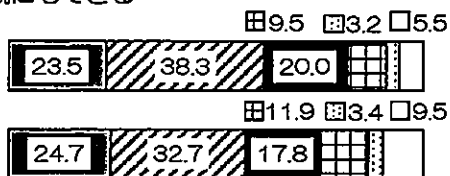


平成27年度

平成22年度

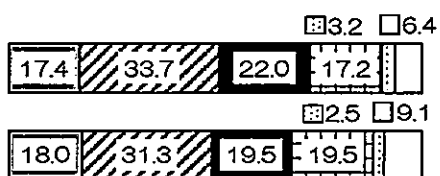


②子どもの世話の大部分は、父親にもできる

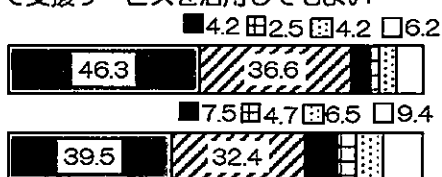


平成27年度

平成22年度

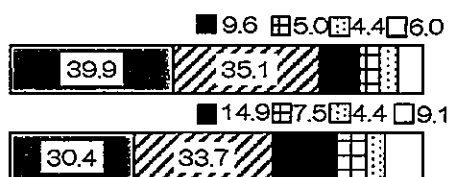


③親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい

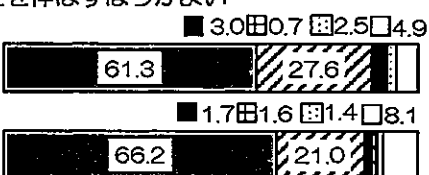


平成27年度

平成22年度

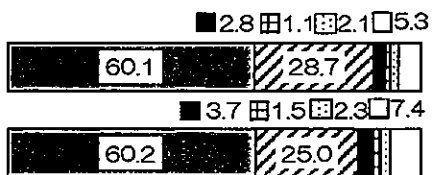


④子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよい

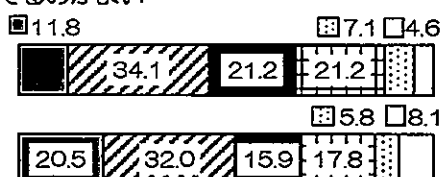


平成27年度

平成22年度

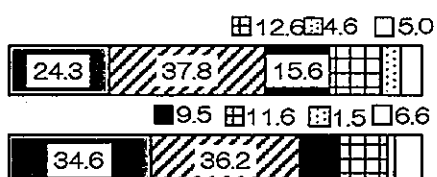


⑤男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるのがよい



平成27年度

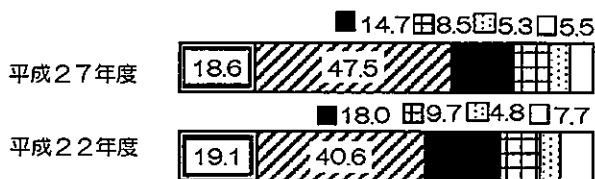
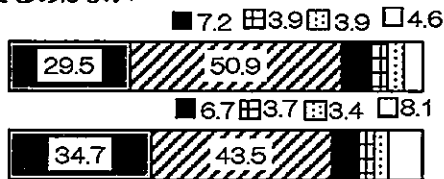
平成22年度



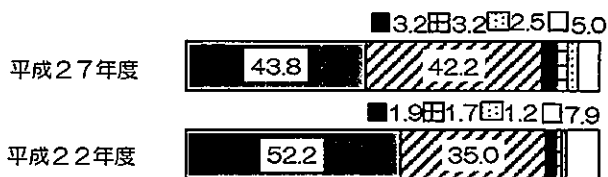
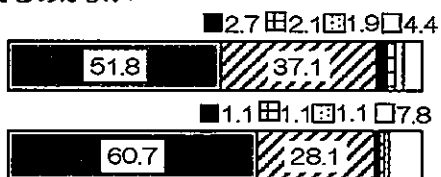
0% 20% 40% 60% 80% 100%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

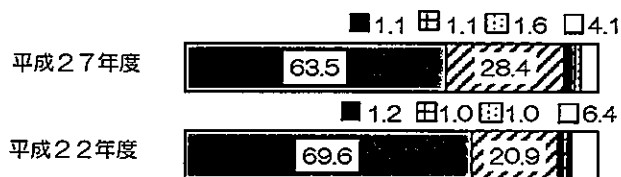
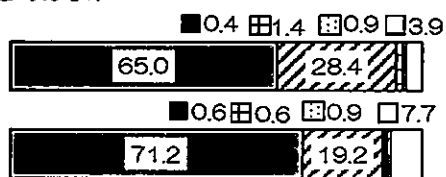
⑥男子は家事ができるように
育てるのがよい



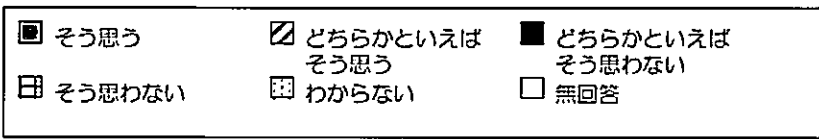
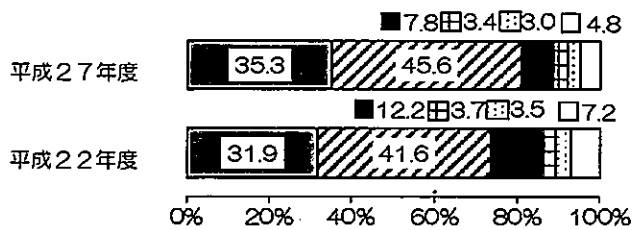
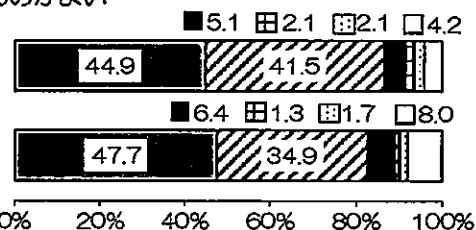
⑦女子は家事ができるように
育てるのがよい



⑧男子は経済的に自立できるように
育てるのがよい



⑨女子は経済的に自立できるように
育てるのがよい



前回調査と比較すると、「②子どもの世話の大部分は、父親にもできる」では、『肯定的な意見』が女性では4.4ポイント、男性では1.8ポイント増加となっている。「③親が仕事をするために、子育て支援サービスを活用してもよい」でも、『肯定的な意見』が女性では11.0ポイント、男性では10.9ポイントの増加となっている。一方、「①子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」と「⑤男子は男らしく、女子は女らしくつけるのがよい」では、男女ともに『肯定的な意見』は前回調査よりも減少し、特に『そう思う』が減少し、『どちらかといえばそう思う』の割合が高くなっている。(図9-1-3)

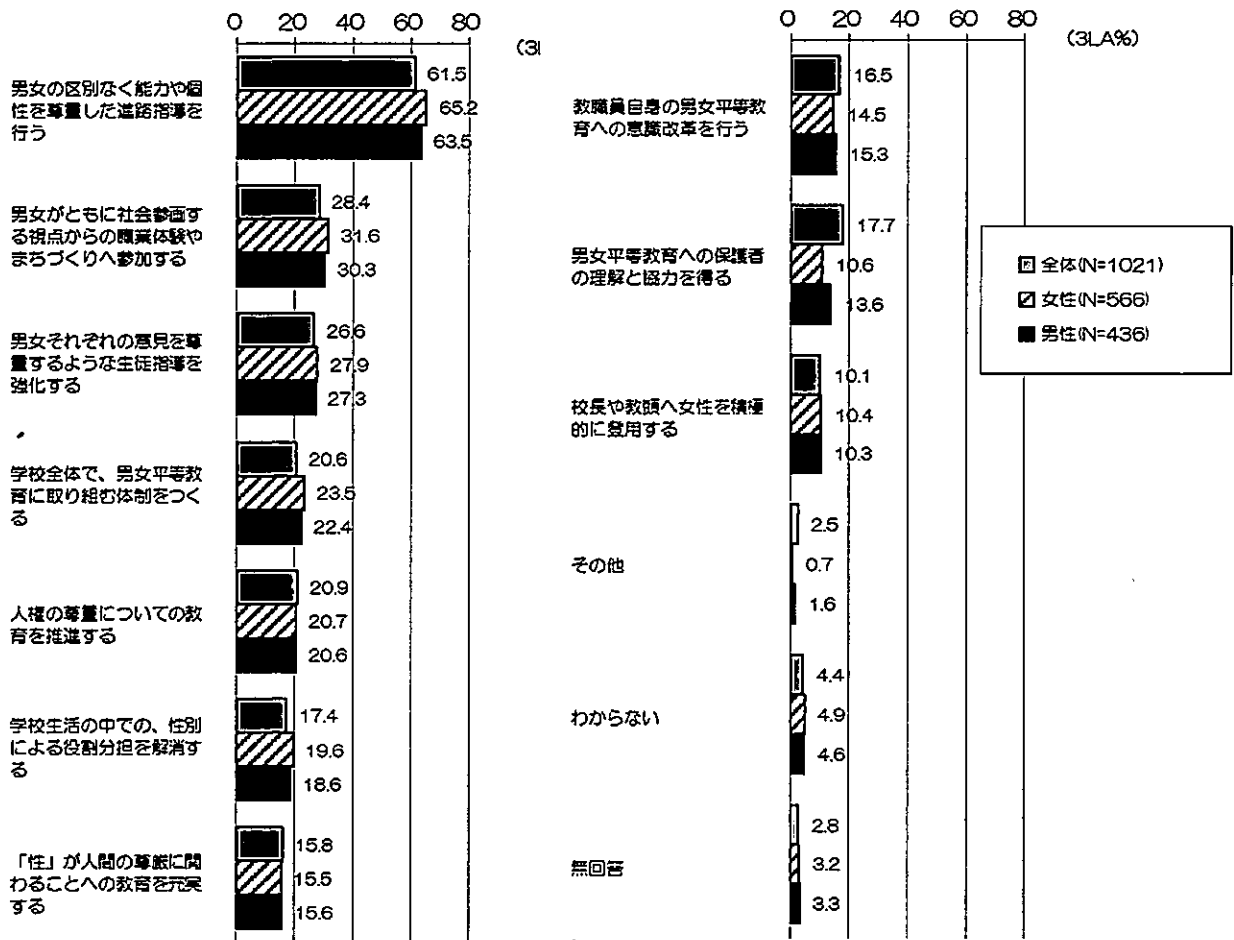
10-1 男女平等教育をすすめるために学校に期待すること

問10 男女平等教育をすすめるために、学校にどのようなことを期待しますか。
(3つまでに○印)

ポイント

- 「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導をおこなう」に期待する割合が突出していて、次点の「男女がともに社会参画する視点からの職業体験やまちづくりへ参加する」に30.0ポイント以上もの差がみられる。
- 全ての項目で、男女間に大きな差はみられない。

図10-1-1 男女平等教育をすすめるために学校に期待すること



男女平等教育をすすめるために学校に期待することについて、全体では、「男女の区別なく能力や個性を尊重した進路指導をおこなう」が61.5%と最も高く、次いで、「男女がともに社会参画する視点からの職業体験やまちづくりへ参加する」が28.4%、「男女それぞれの意見を尊重するような生徒指導を強化する」が26.6%となっている。全ての項目で、男女別に大きな差はみられず、3.0ポイント以内の差となっている。(図10-1-1)